

「サイエンスカフェ in 鳥取」の概要について(事後報告)

1. 開催日時:2021年6月26日(土) 14時00分~16時00分

2. 開催場所:鳥取大学広報センター内 Community Design Lab
(〒680-0945 鳥取県鳥取市湖山町南4-101)

3. 関係団体等:日本学術会議農芸化学分科会
公益社団法人 日本農芸化学会
国立大学法人 鳥取大学

4. 役割

司会・進行:有馬 二郎(鳥取大学農学部)

挨拶:稲垣 賢二(岡山大学大学院環境生命科学研究科,
日本学術会議連携会員, 農芸化学分科会副委員長)

講師:児玉 基一郎(鳥取大学大学院連合農学研究科)

5. 開催概要:

本カフェでは新型コロナ禍の状況を鑑み、会場の参加者人数をキャパシティの50%以下となるように限定し(最大15名)、参加者間のパーティションの設置、手指消毒とマスク着用の徹底の下、リモート(Zoom)と会場とのハイブリッド形式で開催された。

冒頭、世話人の有馬がサイエンスカフェの趣旨(一般的な講演会とは異なり、カフェのような雰囲気の中で、気軽にサイエンスと日々の生活との接点を感じてもらい、双方向での意見交換が出来るような場の提供)を説明し、その後、日本学術会議連携会員稲垣が日本学術会議とその活動の紹介を兼ねて共催の挨拶を10分程度行った。次に世話人の有馬が、講師・児玉基一郎氏の取組みであるローカル酵母を使ったビールやパンの製造開発、梨の葉っぱを使ったお茶の開発を簡単に紹介し、和やかな雰囲気のもと会が進行した。また、会場では実際に販売されているローカル酵母パンや梨の葉から作られた紅茶(なしば茶)を試食としてふるまい、それぞれどのような味わいかを実際に感じてもらった。

児玉氏の講演では、梨の葉に多く含まれるポリフェノールの紹介や、サッカロミセスではない酵母の単離とその菌を使用したビールやパンの開発について解説がなされた。講演後には、多くの質問が会場やリモートから寄せられ、活発な意見交換がなされた。最後に世話人の有馬が「身近な話題」として、実際に販売されているパンやビールの紹介を児玉氏と対話形式で10分程度行い、5分ほど時間を超過して、カフェが終了した。

6. 参加人数:

有料来場者:15名(高校生、中学生、会社員 etc.)

講演者, 司会, 挨拶等:3名

リモート参加者:30名(高校生、大学生、一般 etc.)

7. 特記事項:

なし



・ 児玉氏の講演の様子。



・ 会場全体の雰囲気。参加者には、講演内容にあるローカル酵母パンとなし
ば茶を試食として振舞った。